

6月臨時教育委員会会議録

公開案件

開催日時	令和元年6月4日(火) 午前9時から	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第21会議室	
出席者	委員	中室教育長、都築委員、畑中委員、柳澤委員、岡本委員 【計5人出席】
	事務局	黒田補佐、中垣主任、福岡
	理事者	【教育委員会】 中西教育部長、立石教育部次長、福西教育部参事、東畑教育部参事、 廣岡教育部参事、岡田教育政策課長、細川教育総務課長、山田教職員課長、 伊東学校教育課長、今中一条高等学校事務長、吉田一条高等学校校長
開催形態	公開(傍聴人 2人)	
議題	1 議事 議案第14号 奈良市立一条高等学校の学科再編について	
決定取り纏め事項	1 議事 議案第14号 奈良市立一条高等学校の学科再編については、可決した。	
担当課	教育委員会 教育政策課	
議事の内容		
教育長	それでは、皆さん、おそろいでしょうか。	
教育部長	教育長。本日の案件につきましては、関係者として一条高等学校の吉田校長を臨時的に理事者として出席させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。	
教育長	了承いたします。 一条高等学校の吉田校長の出席を許可いたしますので、吉田校長に入室	

してもらってください。

本日の臨時教育委員会は、一条高等学校の学科再編について審議をお願いしたいと思います。一条高等学校の教育改革につきましては、以前から何度か教育委員の皆様にご議論をお願いしてきたところでございます。平成28年には、いわゆる民間人校長として、藤原校長を外部から招聘し、また、現在は同じく外部から吉田校長に着任していただいております。その間、教育総合会議で市長も交えて議論をさせていただいたり、あるいは、教育委員会の中で何度か議論をさせていただき、吉田校長からも説明をしていただいたりという経過をたどりながら、今日に至っているところでございます。そこで本日は、具体的な学科再編ということについて、ご議論、ご審議をお願いするところでございます。

よろしくお願いを申し上げます。

それでは、会議に入ります前に、事務局より資料の説明をお願いします。

事務局

資料は、本日お配りした資料のみとなります。

どうぞよろしくお願いをいたします。

教育長

それでは、本日の教育委員会は、委員全員が出席いたしておりますので、教育委員会は成立いたします。

ただいまから6月臨時教育委員会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、畑中委員、岡本委員でお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、林政行様ほか1名から傍聴の申し出がございまして、傍聴規則第2条及び第3条の規定に基づきまして、2名の傍聴券を交付いたしましたので、報告をいたします。

それでは、傍聴人の方を傍聴席へご案内ください。

それでは、本日の案件に入ります。

本日の案件は、議事1件であり、公開とさせていただきます。

なお、本日は臨時教育委員会であるため、関係部課長のみでの審議いたします。

また、本日の案件は、市民等に幅広く広報していただくべき内容のものであることから、報道関係者の皆さんにも入室していただいているところでございます。

なお、撮影につきましては、議案第14号の冒頭の案件説明までを許可したいと思います。委員の皆様よろしゅうございますか。

教育委員

異議なし。

教育長

それでは、報道関係者の会議の撮影につきましては、議案第14号の冒頭の案件説明までとさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いをいたします。

それでは、議案第14号「奈良市立一条高等学校の学科再編について」、教育政策課長より説明願います。

お手元の資料をご覧くださいませでしょうか。

まず、奈良市立一条高等学校の学科再編の経緯と趣旨についてでございますが、これから迎える社会は、変化が激しく、将来を予測することが難しいとされ、私たちがこれまで経験してこなかったことや答えが一つとは限らない課題・問題に直面すると言われております。

そうした新たな時代に対応した高等学校改革が求められており、政府の教育再生実行会議の第十一次提言におきましては、高等学校の普通科では、文系・理系科目のどちらかに偏ることなく、バランスよく資質・能力を身につけていくことが重要であるとしています。

また、大学入学者選抜改革が進められており、2020年実施の大学入学共通テストでは、各教科、科目において学習する知識や技能の評価に加えて、それらを活用する思考力・判断力・表現力も評価されるとともに、記述式問題が国語、数学で実施されることになっています。

一方、県では、令和2年度より、県立高等学校適正化計画が順次実施されます。一条高等学校を取り巻く県立高等学校がそれぞれの独自色を打ち出していく中で、一条高等学校が今以上に、より魅力のある学校としてあり続けるための取組が求められております。

このような背景を受けて、一条高等学校では、平成28年度に将来構想検討委員会を設置し、未来を生きる子供たちにどのような教育が必要なのか、そのための枠組みをどうするのかなどについて検討を重ねてきました。さらに、教育委員の皆様からのご意見を踏まえながら、教育委員会事務局と一条高等学校がともに一条高等学校の将来構想について検討を重ねてまいりました。

検討におきまして、一条高等学校の教育には、これからの社会を自らの手で切り拓いていく力を身につけるために、文系・理系に偏らない幅広い知識や技能を身につけることができる教育課程を編成し、文理統合型の「考える力」を育成することが大切であると考えました。

さらに、自分なりの問いを立て、自分なりの方法で、自分なりの答えにたどり着く力、いわゆる探求する力を育むことが大切であると考えました。

そこで、そのような教育の推進を図るために、学科再編を行おうとするものでございます。

お手元の資料3ページ、4ページをご覧ください。

学科・コースの再編につきましては、現行の数理科学科、人文科学科を普通科に再編いたします。そして、新たに普通科の中に科学探求コースを設け、科学的な視点での探究活動を充実させ、理系学部への進学を目指します。外国語科につきましては、現行どおり議論できる英語力の先導役となる学科を目指します。

学級数につきましては、普通科はこれまでの5学級を7学級とし、うち2学級を科学探求コースといたします。外国語科につきましては、現行どおり2学級といたします。それによりまして、学級数の合計としましては、現行と同様の9学級となります。

次に、入学者選抜制度及び募集人員につきましては、奈良市立一条高等学校の入学選抜は、特色選抜、推薦選抜、一般選抜の枠組みで行っていますが、特色選抜と一般選抜は、奈良県教育委員会が策定した「奈良県立高等学校入学者選抜の基本方針」に準じて実施いたします。

科学探求コースにつきましては、特色選抜により選抜し、募集人員は80人といたします。

外国語科につきましては、推薦選抜により選抜し、募集人員は現行どおりの80人といたします。

科学探求コースを除く普通科は、一般選抜により選抜し、募集人員は200人といたします。

そして、通学区域につきましては、科学探求コースを除く普通科は、これまでと同様に奈良市、生駒市、山添村の一部といたします。そして、科学探求コース及び外国語科の通学区域につきましては、奈良県全県といたします。

学科再編の内容のご説明につきましては以上でございます。

引き続きまして、具体的な学科の内容や特徴につきまして、一条高等学校の吉田校長からご説明を申し上げます。

一条高等学校長

私から、教育内容の具体的なことについて、説明させていただきます。まず、学校全体として育てたい知識・能力はどのようなものかについて説明させていただきます。

本校では、4つの柱を立てています。

まず、1つ目は、問いを立て、探求できる文理統合型の「考える力」を育成したい。これはArts STEM教育と本校では言っているのですが、それを基盤とする教育を行いたい。このArtsというのは、人文科学系の学問、あるいは芸術、あるいはデザインということの意味をしています。そして、STEMというのは、サイエンス（科学）、テクノロジー（技術）、エンジニアリング（工学）、マスマティクス（数学）、の頭文字であり、自然科学系、理系的な力を育成していきたい。これをミックスして、考える力をつけていきたいと考えています。教科を統合した学び、融合した学びによって、ネットワーク化されて使える知識、思考力を育成していきたいと考えています。

2つ目の柱として、グローバル化する社会で議論できる「英語力」を育成したいと思っています。

学習した内容について英語をツールとして表現し、発表する力を育成していきたい。英語がしゃべれても、学んだ中身あるいは内容がきちんとしていないとだめなので、まずはそこをきちんと学んで、それを英語で

表現していく力をつけていきたいと考えています。

それから、オンライン英会話による学習とか、あるいは希望者への留学、あるいは研修等の機会を提供したいと考えています。

それから、3つ目の柱として、主体的・自立的「人間力」を育成したいと考えています。

これは、生徒会活動や部活動等の課外活動、あるいは修学旅行等の学校行事において、生徒自らが企画、実行する力を育成したい。学習活動も含めて、粘り強くやり抜く力、いわゆるグリットと言われている「GRIT」を育成したいと考えています。Gはガッツ（度胸）、Rはレジリエンス（復元力）、Iはイニシアティブ（自発性）、Tはテナシティー（執念）です。この力を育成したいと考えています。

4つ目の柱として、前任の藤原校長の時代に整備していただいた、スーパースマートスクールにおいての「情報活用力」、これをさらに育成したいと考えています。おかげ様で全教室にWi-Fiとプロジェクターが整備されています。それを使ってスマホやタブレットといったICT機器を活用した学習を行っていますが、さらに学びの履歴や共同作業をデジタルデータとして蓄積し、生徒がそれを振り返り、自己認識を深める。そういう教育を、さらに進めていきたいと考えています。

以上をまとめますと、ArtsとSTEMを関連づけて学習し、文系・理系の教科をバランスよく学んで、問いを立てる力、探求する力を育成していきます。これは高大接続改革、大学入試改革にも適合し、対応できるものだと考えています。

具体的な今回の学科再編については、資料の5ページをご覧ください。新学科、コースの特徴について、簡単に説明させていただきます。

まず、普通科の一般選抜、5クラスに分ですが、この普通科では、1年次には、理系・文系に偏りが無いカリキュラムを設定します。高校での学びを通して、自分の特性などを踏まえて、将来の目標を見つけていきたい、自己実現していきたいという生徒を育てたい。中学の段階では、まだ将来が余りはっきりわかっていないが、高校に入って幅広く学びたい、将来を見きわめたいという生徒を求めているということです。

文系・理系の両方、簡単に5教科7科目と言ったりしますが、それを主体的に学ぶことのできる文理統合型の考える力を育てます。

2年次からは、理系・文系の大学受験を意識しつつ、深く学ぶカリキュラムで学ぶことができる学科です。

普通科の中に作ります科学探求コースは、特色選抜で2クラス作ります。このコースでは、高校進学時に、既に科学的な視点での探究活動に興味・関心があり、より主体的に学ぶことを希望する生徒、さらに、将来、理系学部への進学を考える生徒に向けたコースです。1年次、2年次は、芸術を除いては統一したカリキュラムで、3年次に選択を入れていきます。また、総合的な探求の時間、もう既に始まっているのですが、それを1年から3年まで2時間ずつ実施し、一貫したより探究的な学び

を行えるようなコースにしたいと考えております。

最後に外国語科は推薦選抜で決まるクラスですが、先ほどもありましたように、議論できる英語力を先導する専門学科として、学んだ内容をコミュニケーションツールとしての英語を用いて発表、表現することができる力を育てたいと考えております。多様な進学に対応するために、1年次では、基盤となる教科科目を履修して、教科融合の素材を生かして学習を進め、2年次からは、文系、理系の選択をするカリキュラムを行います。国公立大学や私立大学、あるいは海外大学を含めて、それも理系も含めて進学を主な目標として学習します。第2外国語も履修できるわけですが、先ほども言いましたように、その外国語の学習に特化することなく、その学習内容を表現し、発表するツールとして活用できる英語力が育成できるかということを考えているところです。

以上、本校の教育と学科・コースの特色を説明させていただきました。

教 育 長

事務局から提案理由について、そして、補足して一条高等学校長から学科再編の教育内容について、説明をいただきました。

それでは、教育委員の皆様からそれぞれご意見をお伺いし、ご質問があれば、学校長、もしくは事務局にお尋ねいただけたらと思います。

今の説明で、何か分かりにくかったことは、ございませんでしょうか。冒頭申し上げましたように、これは初めての一条の議論ではありませんので、以前にも学校長にも来ていただいて、説明していただいて、我々も勉強会をしたというような経緯もございます。あるいは、市長を交えて総合教育会議で議論したという経緯もございまして、ここにたどり着くまでの議論は何回かお願いしたわけでございます。ですから、今日は、その総まとめということになろうと思いますが、基礎・基本の確認をもう一回していただいても結構ですし、これから先のことを論じていただいても結構でございますので、どうかご自由にご発言をいただけたらと思います。

岡 本 委 員

この件については、十分議論を重ねてきましたけれども、こちらの資料の5ページに、学科再編に伴う3つの学科・コースである普通科、科学探求コース、外国語科の内容・特徴を具体的に書いていただいておりますが、もう一度改めて、この再編によってどういった教育をなさろうとしているのかということについて、学校長にお伺いしたいと思います。

教 育 長

自席からで結構ですので、マイクを通して、皆さんに聞こえるようお願いいたします。

一条高等学校長

まず、事務局の説明にもありましたように、文科省から中教審への諮問のなかで、普通科での文理統合的な学びということが国からも言われています。そういうことを含めて、やはり高校で学ぶべきことをきちんと

学ばせたいと考えております。ややもすると、最近、特に高校教育は大学入試を目標にして、大学入試に必要な科目しか勉強しないという傾向があり、後期中等教育、高校で学ぶべきことはちゃんと学ぶ必要があるということを感じています。国の方針もあり、そういう方向性を立てて、今まで数理科学科、人文科学科も非常にいい教育を行ってきましたが、やはり理系に特化している、文系に特化しているという面があったので、そのあたりを文理統合して幅広く学ばせたい、そういう教育を行いたいということで、学科再編を行ったということです。

その際を中心となるのが、問いを立てて探求する力であり、それを学校全体でやりたいと考えております。その問いを立てて探求する力というのは、やはり幅広い力が必要で、そうでないと山も高くないと考えていますので、そういう思いで学科再編を行ったということです。

教 育 長

ほかにどうですか。

都 築 委 員

先ほど、何度もこういうことは議論してきたという話もございました。また、我々が一条高校に足を運び、前任の藤原校長のときから「よのなか科」の授業に参加させていただいたり、吉田校長になられてからは、こんなふうに授業の中身が変わっているのだということオープンにされ、先生方がどういう授業をされているのかということを見学させていただいたりしております。また、教員の方々とともに、校内研修会を実施されており、その研修会にも柳澤委員と参加させていただく等、一条高校が変わりつつある姿を見せていただけてきたところです。

「不易流行」という言葉がありますように、一条高校で考える力、探求する力を育成する。これは本当に普遍的なことだと思います。しかし、一方で、やはり変わっていくもの、新学習指導要領が始まったり、大学入試改革が行われたり。2020年からはいよいよ大学入試の大学入学共通テストが行われますが、一条高校では、この変わっていくところにどのような対応をしようと考えていらっしゃるのでしょうか。

一条高等学校長

大学入試制度が2020年度から変わるわけですが、共通テストでは、記述式が導入されるということになっています。思考力、判断力、表現力が問われるということですが、本校で先ほどから説明しております教育を行ってれば、その記述式にもきちんと対応できると考えています。探求する力、考える力をつけていくと、学校の教育でもやはり書くということを重視してやっていきたいと思っておりますので、そういう改革にも対応できると思っています。

それから、もう一つ、外部検定が英語で導入されますが、それにつきましても、既に本校では、ベネッセが認定している外部検定のGTECを今年度から全校生徒に受けさせるという形で、対応も進めているところです。

そういったことから、今考えている教育を進めていけば、十分大学入試改革にも対応できると考えています。

都 築 委 員

既に先を見越した対応をされているということで、分かりました。

教 育 長

今、都築委員がおっしゃったことを私も思い出したのですが、公開の授業も、もう去年で2年目です。小・中学校の義務教育では、保護者の方に授業を参観していただいたり、公開授業を行うというのは、割と日常的に行われているのですが、高等学校の教育で授業を公開して、みんなに見てもらうというのは、余りないようです。吉田校長は去年からそれを強調していただき、とにかく授業を公開し、授業の中身を問うというように進めていただいております。我々もそれを見せていただいていたという一つのステップを踏んできているのかなと思います。ほかにご質問はございますか。

柳 澤 委 員

この普通科というのは、特に国の先ほどの中央教育審議会から現在進行形ですが、答申が出てくるかと思いますが、そういう意味でいくと、一条高校の改革、再編ということで、改めて普通科の原点を振り返る形でお進めになっているという理解をしました。

ただ、大学の入試制度改革が確実に進みますが、最終的に改革の内容が記述式はそれとおりののですが、そのほかで我々が理解する、目指している文理融合ということがストレートに反映されるかどうか、まだちょっと丁寧に見ないといけないという気がしているところです。いずれにいたしましても、戦後ずっと長く続いた普通科教育のあり方を改めて点検して、いいものをつくる。そこに力を集中していこうというふうに、私自身は受けとめました。

改めて、先ほどのご説明では、普通科の中に科学探求コースを設け、後の5クラスについては、文理融合型のカリキュラムで教育していきたいということなのですが、従前とやはり変わるところがあると思います。これまでやってきた4学科体制と、改めて普通科でそういう文理融合、A r t s S T E M型教育をやる上で、学校の先生方が、子供たちに主体的な学びをさせるということは、先生方自身の主体的な研修、力量のアップというのが必要だと思います。その辺の取り組み状況も、あわせてご紹介いただければと思います。

一条高等学校長

まず、やはり普通科ではリベラルアーツ的に、先ほども言いましたが、裾野を広くしないと、山は高くならないと思います。得意な部分を伸ばしてあげるのも大事で、それをさらに伸ばすためには、やはり好きなものだけではなく、幅広く学習することによって、広い裾野を持った高い山をつくりたいと考えています。

もう一つは、大学入試で入った途端、剥落する学力があるわけです。大

学の先生がよく嘆いておられるのですが、そういう学力じゃなくて、生涯学び続ける学力、すなわち本当の学ぶ力をつけたいというふうには考えています。

そのためには、今おっしゃっていただいたように、教員の力量アップが非常に大事ですので、本校では去年から授業研究委員会を作って、授業に関する研究を行っています。今年度から、その授業研究委員会の中で教科融合部会というのを作りまして、文理統合とか、教科を融合した新学習指導要領でも教科横断的な学習というのが言われていますので、そこを意識した研究を進めてもらっています。昨年度採用した4人の教員を中心に、10人の教員をメンバーとして、教科を融合した学びはどのようにやれば良いのか、そういう教材を作成しつつ、この間も1回授業を公開いたしました。来週、また別の授業を公開する予定で、作りながら公開して、みんなで議論して進めていくという形で、学校全体で進めていきたいと考えているところです。

教 育 長

大学の先生の側からのご意見でもあったかなと思います。

長い間、日本の高等学校の教育は、高2ぐらいになると文系、理系に分かれてしまって、大学の受験に必要な科目だけ勉強して、とにかく大学へ入ったらいい。

ただし、入ってからが問題で、そこで学んだ4年間で、次にどんな社会に出て、何をするのかということが問われないといけないのに、単に大学の入り口だけが問題になっていて、もう高2、高3になったら、文系に行く子はもう数Ⅲやらないみたいな、そんな選択が今の大学入試制度ではありになっているわけです。だから、そこを改革していこうということなので、文系も理系もやはりともに学んで力をつけていくという、そういう議論だろうと思うのですが、柳澤先生、それでよろしいですか。

柳 澤 委 員

学ぶ力をつけていくと、恐らく中学校で学ぶ力は、その段階に応じてついて、高等学校でも力がついて、最後の段階、ホップ・ステップ・ジャンプの大学で、力がつくようにそれぞれの大学は努力されておられます。本当に学ぶ力、学んだ内容そのものは不易流行で、陳腐化するケースがあって、常に社会人、職業人となっても、リニューアルしていかなければならない。そういう時代に入るという意味で、予測不可能な時代に入るのですが、高校時代に方法論を含めてしっかり学び、こういうことかというのを実感するというのは、受験もそうですけれども、非常に大事だと思います。新しい教育のスタイルで、全国のモデル校になっていただけたら良いなというぐらい、私は期待をしています。

教 育 長

柳澤委員がよく言われる、それぞれの教科をしっかりと学ばないと、高等学校教育を終えたことにならないということも、前回のときは強調されたと思うのですけれども。

柳澤委員

若干の補足で、先生方の意識としては、自分が受け持っている国語なら国語という教科は責任を持ちます。他の教科のことは、先生方、専門家がまたいらっしゃる。しかし、このスタイルでいく文理融合ですので、先生方が自分の専門教科を主軸にして、他の教科のことも視野に入れているから、子供たちがその先生の言うことがよくわかってくるというスタイルになってくるはずなのです。その意味で、先ほど申し上げたのと重なりますけれども、先生方の協働性と言うのも、非常に大事になってくると思いました。

教育長

先生方の協働性と言うところも、ひとつのご提案だと思いますが、また今後、それを深めていくなど、よろしくお願ひしたいと思ひます。ほかにご意見はありませんか。

都築委員

私も柳澤委員同様に、非常に期待をしております。
子育てをした身で言いますと、やはり学び続ける力を若い時代につけてもらうというのは、これは一生の幸せに繋がると思うのです。我々大人になってから、「何で勉強せえへんかったんやろう」と思い返しますよね。それは、やはり学ぶことのすばらしさを、社会に出てわかってからだと思うのです。でも、そういうことに気づける嬉しさというのものもあると思うのです。だから、その学び続ける力というのは、イコール生きる力だと思うのです。ですから、早い時代にそういうことに気づかせてもらえるような教育というのがすばらしいと思ひます。
少し戻りますが、今まであった数理科学科、人文科学科、それを再編されるということなのですが、今までやってきた数理科学科、人文科学科、それぞれに特色があつて、良い取組をされてきたと思うのです。それをただ一緒にして普通科にするのではなく、今までのことをどう生かすか。新しい指導方法で、この学科再編にどう生かしていくかというようなところを、少しお聞かせいただければと思ひます。

一条高等学校長

数理科学科と人文科学科が無くなってしまうというふうに思われるのが、一番だめと申ひますか、そうじゃないと思ひます。ですから、数理科学科と人文科学科が今までやってきた実績、実践、あるいは財産、それを普通科の中にできる限り取り込んでいきたいと考えています。
例えば、数理科学科では、大学の先生に協力していただいて、課題研究というのをやってきました。
それから、人文科学科は、色々なフィールドワークもやってきました。今、ちょうど講堂を建てかえるのに発掘調査をしているのですが、そこに人文科学科の子どもたちが、順番に日を変えて、へらを持って、作業員の人に指導してもらつて掘つたりしています。
そういうフィールドワーク的なこととかは、普通科の学生の中にもどんどん取り入れていきたいと考えています。

今までの専門学科の財産を引き継ぎ、普通科の中に、リベラルアーツ的な教育を作っていきたいと考えております。

都 築 委 員

今の生徒たちも、既にそのリベラルアーツ、A r t s S T E Mのようなことも含めた授業を、一部取り入れている格好なのかと思いますが、この再編によって、現在の在校生については、何か変わるようなことはあるのでしょうか。

一条高等学校長

基本的には、今の数理科学科と人文科学科のカリキュラムは変えないで、最後まで卒業させます。ただ、リベラルアーツ的な、あるいはA r t s S T E M的な教育を基盤として、今考えている新しい教育、新しい学科に対する教育は、当然その人文科学科、数理科学科の子たちにもなされていくこととなります。教員全員が色々考えて、各教科において教科融合的なものをまずはやっていこうと思います。それは、今の在校生にも全部適用する考えでいます。

教 育 長

私も聞きますのは、いわゆる人文科学科と数理科学科が無くなるのと違うかというような印象を、大変強く受けておられるということです。そうでは無いという説明を、きちんとしていただきたいと思います。

畑 中 委 員

人文科学科と数理科学科ということはお話が出たのですが、一条高校の改革につきましては、先ほどもお話がありましたように、平成28年度に藤原校長が就任されたときから既に始まっていて、吉田校長がその後、現在進行中で進めておられるということだと思っております。藤原校長が就任されたときも、色々な議論や意見もあったと思うのですが、まず、生徒が主体的に自分たちの高校ということで、藤原校長を迎え入れ、学校生活を送っていった。そこに先生方も協力というか、協働という形で高校教育を進められ、それを保護者、育友会が応援していったというところだと思います。やはり、そういう文化というのが、一条高校には力があると思いますので、今後の学科の再編につきましても、みんなで応援して盛り上げるということを、そういう空気がきっと生まれてくると思います。在校生も、私たちがそれほど心配することは無いのかなとは思いますが、やはり、自分たちの学科が無くなるというような声は、どうしても聞こえてくると思います。そのあたり、校長先生、先生方の立場から、在校生や保護者に対して、どのような形でご説明をされるのか、もう一度改めてお聞きいたします。

一条高等学校長

今日の臨時教育委員会でこの再編が認められれば、保護者宛の文書を明日付けで生徒を通じて配布する予定です。
生徒もそれをまずは読んでくれると思いますが、その後、生徒に対しては、心配しないでもいい、今までどおりの教育はちゃんとやっていくので

心配しないで学習してくださいということは、ホームルーム担任、教科担任を通じてまず説明し、その後、終業式に、私から全校生徒に対して、きちんと説明したいと考えています。

それから、保護者に対しては、明日配布する文書に、6月9日にまず説明会を行いますので、希望の方は来てくださいという形で説明会を設定しています。

また、6月17日には、一番感じるであろう1年生の保護者集会がありますので、その場でも、私から、この学科再編について説明し、きちんとやっていきますので心配しないでくださいということを説明させていただきたいと思っています。

教 育 長

畑中さんは、元一条高校のPTA会長でもございますので、畑中委員としては、そのあたりのところを一番ご心配いただくのだと思います。

また、畑中委員のところへは、様々な声も、そういう形で入ってきているということも、委員の中で共有をして、学校長に伝えたいと思いますので、その辺はしっかりと受けとめていただきたいと思います。

ほかに、ご意見ございませんでしょうか。

畑 中 委 員

今の校長先生のお話を聞いて、本当に安心だなと感じております。

ちょっと話が変わるのですが、このフライヤーを見せていただいているのですが、今後、多くの保護者の方、また受験を控える生徒の皆さんの目にも届くことだと思うのですが、ここに、中高一貫ということが載っています。まさに、大学の入試改革ということは、高校の学びが変わっていく。高校の学びが変わるといことは、中学校の学びも当然変わっていくであろうと思います。やはり、今の中学生、高校生が未来の社会を切り開いていく原動力になるということだと思うのですが、中高一貫教育について、どのようにお考えか、お聞かせください。

教 育 部 長

今回の一条高校の学科再編と言いますのは、この一条高校のさらなる発展に向けての取組の一つのステップであると考えております。

先ほどの委員からのお話の中にもありましたが、民間の校長を招聘して、その中の取組の中で、講堂の建設や新しい制服の導入を初めとして、様々な一条高校改革にも着手していただいたところでございます。

今回の学科編成を経て、次のステップとして、高等学校3年間の教育ということだけではなく、6年間というスパンで一貫した教育を行う中高一貫教育を導入することについても、今後、具体的に検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。

岡 本 委 員

中高一貫教育については、今の時点ではいつごろから導入しようという考えですか。

教 育 部 長	<p>中高一貫教育の導入を検討していくに当たりまして、今後、教育委員会としては、他都市の先進事例の調査、またコストの試算、そして、さらには保護者や学校、また有識者のご意見等も承りながら進めていきたいと考えているところでございます。この進捗につきましては、教育委員会会議でも逐一ご報告をさせていただきたいと考えており、教育委員の皆様のご意見も承りながら、より良い中高一貫教育にしていく必要があるのではないかと考えております。そのため、現時点では、その導入時期を含めまして、あわせて検討しているというところでございます。</p>
岡 本 委 員	<p>少子化が進んでいく中で、やはり中高一貫教育で、吉田校長が言ったA r t s S T E Mのような教育を、しっかりとやっていくというような方向性に恐らくなっていくのだろうと思います。</p>
教 育 長	<p>このことについては、また、引き続きご議論をしていただけますように、事務局から提案させていただきたいと思います。 ほかにございますか。</p>
畑 中 委 員	<p>今後、受験生や保護者の方に向けて、どのように周知をされるかお聞きしたいと思います。先日、奈良市のP T A連合会が、リーダー研修会ということで、加入していただいている幼稚園、小学校、中学校、もちろん一条高校も加入していただいているのですが、P T Aのリーダーの方々に集まっていただき、中室教育長に、「奈良市の取り組む未来型教育」ということでご講演をいただきました。子どもたちの生きる未来と、その社会を生きていくのに必要な力と、学校教育に求められるものということで、大変丁寧にご説明をいただいたのですが、その上で、一条高校の学科再編ということでお話をいただきました。 保護者の方の感想としましては、今後、高等学校で身につけていかなければならない力というのが、イメージ出来たとおっしゃる方もありましたし、教育長自らがお話しいただいたということで、奈良市が進める教育というものを、唯一の市立高校である一条高等学校で、今後、進めて行かれるということ、すごくイメージ出来たとおっしゃっている方も大変多かったです。 改めて、次年度の受験時期から、注目される高等学校になるのではないかと思います、やはり当事者である中学校3年生と保護者の方に対しての周知ということが大変大切になってくるかと思しますので、そのあたりを少し聞かせてください。</p>
教 育 長	<p>今、吉田校長から校内の保護者や、子供たちへの対応は説明していただいたのですが、教育政策課長からもう少し広く全体的なことについて説明願います。</p>

教育政策課長

今回の学科再編の内容につきましては、これから受験を迎えます中学生とその保護者、進路指導を行う中学校に対しまして、できるだけ丁寧に説明をしていきたいと考えております。そのため、今回の再編案をお認めいただきましたら、中学生とその保護者を対象とした説明会を、市内3箇所と、市外でも開催したいと考えております。

具体的な予定といたしましては、7月7日に奈良市教育センターで、7月13日に奈良市北部会館で、7月20日に奈良市西部会館で、また、市外では、7月21日に橿原市にごございます奈良県社会福祉総合センターにおいて開催をしたいと考えております。

また、直接進路指導を行う奈良市中学校進路部会への説明とあわせまして、全ての市立中学校を訪問し、学校への説明を徹底してまいりたいと考えております。

そして、夏季休業中におきましては、中学生、受験生向けに一条高等学校におきまして、体験見学会を実施していく予定もしております。また、9月29日には、一条高等学校でオープンスクールを実施いたしますので、その際にも受験生、また保護者の多くの皆様にもご参加いただきたいと考えております。

さらに、一条高等学校のホームページにおきましても、必要な情報を随時掲載していく予定でございますので、そうしたことによりまして、中学生や保護者に対しまして、説明や周知というものをできるだけきめ細かく、丁寧に行ってまいりたいと考えております。

教 育 長

そういう予定をしているということでございますが、委員の皆さん、よろしいですか。

その都度、お気づきの点が出ましたら、またご指摘いただいたら、変更は十分可能だと思いますので、今日のところはこれでよろしいですか。ご意見ございませんか。

柳 澤 委 員

先ほど少し十分では無かった、足らなかったかもしれませんので、補足させていただきます。

現在の普通科というのは、教育課程が決まっています、それぞれの科目を3年間のうちに履修して、この科目間の繋がり、連携等を生徒自身が理解するというチャンスが全くないのです。その意味で、これまでの普通科と、これからの一条高校がまずされるA r t s S T E Mによる普通科教育とは、ひょっとすると全く異次元で、かなり違うものだと思います。そのことを生徒に、あるいはこれから入ってくる子どもたちに伝えていただけたらいいなということです。

もう一点、私はちょっと歴史好きなので、やはり創立70周年、講堂の完成等も含めて、そのあたりに一つの大きな一条高校の歴史の山がある。もう一度70年前を振り返ると、記念誌の「一条高校の歩み」の中で、70年前に奈良市立高等女学校があって、それがなくなるというこ

とがあつて、それではいけないという当時の、我々の祖父の世代のことですが、頑張って、市立一条高校をつくろうとされた。名称も一条にしようとしたときの一つの大きなスローガン、今で言うキャッチコピーですが、「フロンティアスピリット」だったわけです。それは戦後5年以内に、昭和25年だと思ふのですが、全くどんな高校をつくるのかも、つくったこともない高等学校をつくるというわけですから、そのときに乗り出そうとしたときのベースになるのが、コロンブスが船出したときのフロンティアスピリットでした。一条丸という言い方もされていましたが、その意味でいうと、現在、21世紀に入っていますが、20年ぐらいたって、やはり予測不可能な時代というのを誰でもが言うような時代ですので、文字どおり、当時の状況と、もちろん背景は違ふのですが、これから船出する子どもたちに一生の航海図をつくっていただかないといけない。完成は出来ないと思ふのですが、その意味で、新しい取組で、普通科をモデルチェンジというか、フェーズアップするというか、さまざまな捉え方でチャレンジされるというのは、その意味でモデルには十分なり得ると思ふので、頑張ってくださいとエールを送りたかった。

教 育 長

では、ただ今のエールも受けまして、審議はここらあたりで閉じたいと思ひますが、他にご意見、ご質問はございませんか。

それでは、議案第14号「奈良市立一条高等学校の学科再編について」採決いたします。

本案を原案どおり可決することに決しまして、ご異議ございませんか。

教 育 委 員

異議なし。

教 育 長

異議なしと認めます。

よって、議案第14号は原案どおり可決することに決定いたしました。

これで、本日の案件を終了いたします。

ほかに、何か事務局から連絡事項はないですか。

それでは、本日の臨時教育委員会はこれで閉会させていただきます。

ありがとうございました。